資 料 No. 2

１学年３学級以下の小規模校の課題等について

１ 学校規模の比較

(1) １学年の平均学級数

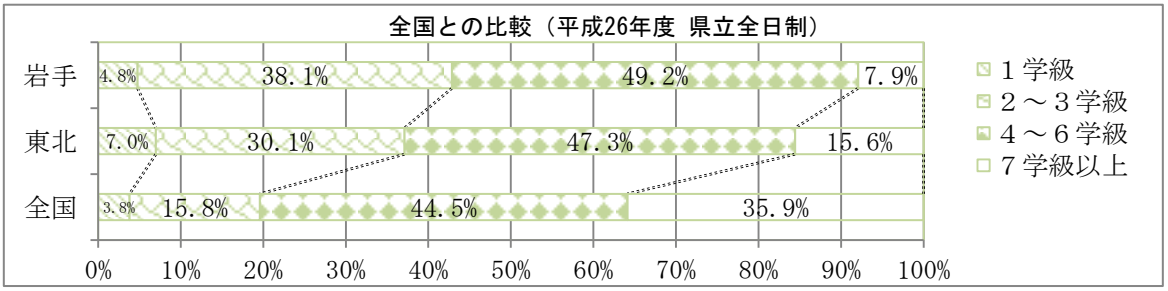
年　度	岩 手 県	東　北	全国平均
平成26年度	4.06学級	4.39学級	5.58学級
平成38年度	2.89学級		

※ 平成 38 年度の「学級」は、平成 26 年度の学校数 63 を維持した場合の推計値。

(2) 県立高校全日制課程における１学年１～３学級規模の学校の割合（平成 26 年度）

	学校数	１～３学級規模の学校数	割 合
岩手県	63	27	42.9%
東　北	372	138	37.1%
全　国	3,266	640	19.6%

(3) 学校規模と全体に占める割合(平成 26 年度 県立全日制)



１学年３学級以下の学校では、生徒一人ひとりに対応したきめ細やかな指導ができ、地域との連携による進路や部活動の成果等一定の実績を上げている。

２ １学年１～３学級規模の小規模校の状況

(1) 学習指導

現　　状	課　　題
・ 学力差が大きいことから、習熟度別指導や学校設定教科・科目を設定する等**進路に対応した少人数指導**を行っている。	・ 普通教科における**科目選択の幅が少ない**。 ・ 生徒の文系・理系の希望状況によっては、混合クラスができるなどの制約が生じる。

［普通教科の平均教員配置数(平成 27 年度)］　（単位：人）

学校規模 / 教科	１学級	２学級	３学級	４学級	５学級	６学級	７学級
国　　語	2.3	2.4	4.0	6.0	6.6	6.8	8.7
地 歴 ・ 公 民	1.8	2.4	3.5	4.0	5.4	6.2	8.0
数　　学	2.5	3.1	4.0	6.0	7.0	8.7	9.0
理　　科	1.5	2.7	3.0	4.0	6.0	7.5	8.7
英　　語	2.8	3.0	4.0	5.0	7.2	8.3	9.3
配 置 教 員 合 計	14.3	19.0	25.0	30.0	40.0	44.8	55.3

※ 普通科系学科を設置する高校を対象としている。ただし、総合選択制高校（不来方高校、花巻南高校）及び専門学科を併置する高校は除く。
※ 教員数は各教科の副校長、教諭、常勤講師、非常勤講師の総数

［開設科目の特徴］

６学級規模の学校では、大学等への進学を目標とする生徒の割合が高く、国・数・英では単位数を多くする、地歴や理科では多くの科目を開設する等、生徒にとっては**進学希望や興味･関心に応じて選択できる状況**である。

２学級規模の学校では、生徒の多様な進路希望に対応するため、学校設定科目を設定する、商業科目等の専門教育に関する教科を開設する等の工夫が見られる。

しかし、教員の配置が限定されることから、例えば、地歴では地理を履修できない、理科では物理を履修できない等、生徒の興味･関心に対応できない場合があり、進学希望者にとっては、**履修科目によって進学の選択肢が狭められる**ことにつながることもある。

［地歴、理科の開設科目の例］

［Ａ高校　２学級］		［Ｂ高校　６学級］	
【地歴】	【理科】	【地歴】	【理科】
世界史Ａ 世界史Ｂ 日本史Ｂ **（学校設定科目）** 近現代日本史	科学と人間生活 物理基礎 化学基礎 化学 生物基礎 生物	世界史Ａ 世界史Ｂ 日本史Ａ 日本史Ｂ 地理Ａ 地理Ｂ **（学校設定科目）** 世界史Ａ探究 世界史Ｂ探究 日本史Ａ探究 日本史Ｂ探究 地理Ａ探究 地理Ｂ探究	物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 **（学校設定科目）** 生物基礎探究 地学基礎探究
２学級規模の地歴平均 4.30 科目	２学級規模の理科平均 6.70 科目	地歴平均 7.33 科目	理科平均 9.00科目

大学等への進学を目指す生徒に対応するため、地歴や理科では選択科目をできるだけ設定している。

しかし、理科では、科目として物理が設定されていないことから、例えば、国立大学の工学（理工含む）で機械に関する学科を受験する場合に対応できない場合がある。

地歴と理科では、ほとんどの科目を設定している他に、学校設定科目を設定し、生徒がそれぞれの進路に合わせて幅広く学習できる環境を整えている。

(2) 部活動の開設状況

現　　状	課　　題
・ 地域との連携のもと、インターハイに出場する等、活躍している部がある。 ・ 団体競技では、他校との連合チームによる活動機会の確保等の工夫が見られる。	・ 部活動の数が制限され、生徒の選択肢が少なく、中学校にあった部が高校にはない等、継続的な活動ができない状況が見られる。 ・ 活動人数が少なく、活動を維持していくことが困難な部が多くなっている。

［小規模校での部活動設置の例］

［Ａ高校　１学級］
◇ 運動部（計　６部）
弓道、硬式野球、ソフトテニス、バレーボール、自転車競技、山岳

□ 文化部（計　３部）
吹奏楽、ＪＲＣ、学芸

⇨

《現状》
東北大会に出場する等の活躍が見られる運動部もある。
しかし、部員が少なく単独チームで大会に参加できないため、他校との連合チームで大会に参加している状況等も見られる。

［Ｂ高校　２学級］
◇ 運動部（計　８部）
バドミントン、硬式野球、ソフトテニス、バレーボール、陸上競技 等

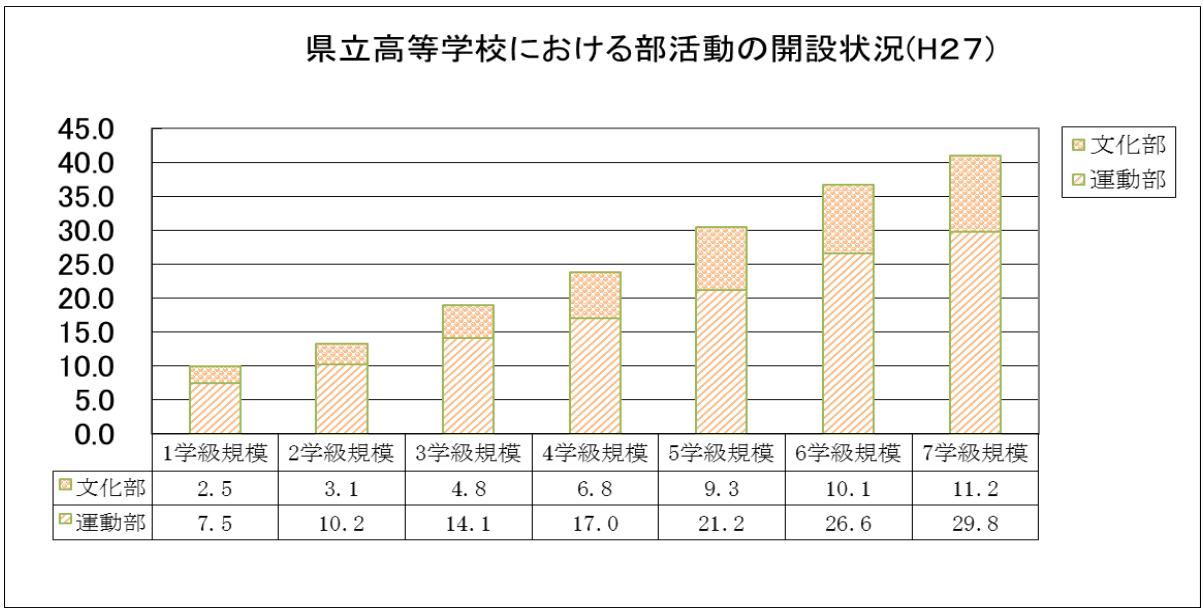
□ 文化部（計　４部）
吹奏楽、美術、茶道、総合文化

⇨

《現状》
小規模ながらインターハイに出場する部もあり、活発な活動が見られる。
しかし、新たな入部者がいないため、活動の継続が難しい部もある。

［活躍］
◇ 岩手県高等学校総合体育大会（平成 27 年度）※ 団体競技のみ
第１位　卓球(女)［大野］　バドミントン(男)［前沢］　相撲［平舘］
ホッケー(男)［沼宮内］
第２位　バドミントン(女)［前沢］　ボート［雫石］　ホッケー（女）［沼宮内］
第３位　相撲［山田］　自転車(トラック)［水沢農業］
ソフトボール(男)［金ケ崎］　登山(女)［平舘］　ボート［山田］
ウェイトリフティング［久慈工業］　なぎなた［一戸］

□ 第 38 回全国高等学校総合文化祭茨城大会主な出品作品・参加校
［写真部門］　遠野緑峰高校（２作品）　奨励賞受賞
［郷土芸能部門］　岩泉高校（中野七頭舞）　優秀賞・文化庁長官賞



	1学級規模	2学級規模	3学級規模	4学級規模	5学級規模	6学級規模	7学級規模
文化部	2.5	3.1	4.8	6.8	9.3	10.1	11.2
運動部	7.5	10.2	14.1	17.0	21.2	26.6	29.8

※ 全学年に在籍している県立全日制高校について、学校規模別に平均した値である。
※ 平成 27 年度学校要覧による、開設している部活動(同好会を除く）である。

(3) 生徒指導

現　　状	課　　題
・ 生徒一人ひとりを把握でき、きめ細やかな指導体制となっており、不登校傾向の生徒の改善が図られるケースがある。	・ 生徒会活動や部活動等でリーダーとなる生徒が少ない。 ・ 学校不適応の生徒や特別な支援を要する生徒が多いことから、その対応も求められる等負担が大きい環境となっている。

(4) 地域との連携・協力

現　　状	課　　題
・ 奉仕活動やボランティア活動等を通して地域との連携が密に図られている。 ・ 学習支援や部活動等、地域からの支援を受けている学校がある。	・ 地域との連携にあたっても少ない教職員の中で対応する必要がある。